



宮津 進 (みやづ すすむ)

地圏資源環境研究部門 (地圏環境リスク研究グループ)

2014年度より任期付研究員として地圏資源環境研究部門地圏環境リスク研究グループに配属となりました宮津進と申します。新潟大学大学院にて学位を取得しました。

専門は農業工学・農業水利学です。大学では、現地実験・数値シミュレーションによって農業用水や湖沼の水質、水田の洪水緩和効果を解析してきました。フィールド調査の魅力に取り憑かれ、いずれの研究でも昼夜・天候を問わず頻繁に現地に出向いてデータ収集をしてきました。

現在は、環境水中の放射性セシウムのモニタリング技術の開発および環境動態評価に関する研究を行っており、大学時代と変わらず、現地調査重視の姿勢で研究しています。

産総研には、多種多様な分野の研究者が多くいらっしゃるので、幅広い知見を吸収していきたい



と考えております。まだまだ若輩ものですが、皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



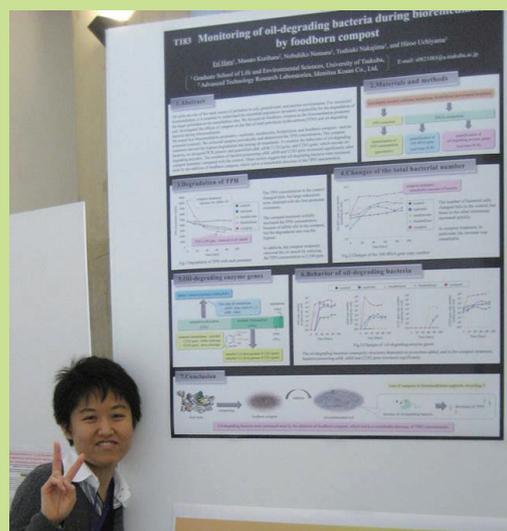
原 英里 (はら えり)

地圏資源環境研究部門 (地圏微生物研究グループ)

地圏資源環境研究部門 地圏微生物研究グループ 産総研特別研究員 (イノベーションスクール PD 生) の原英里と申します。2013年3月に筑波大学で博士号を取得し、同大学での博士研究員を経て2014年4月より現職です。

専門は微生物学で、大学では微生物を活用した環境汚染浄化技術に関する研究に取り組んでいました。特に、石油を好氣的に分解、汚染を浄化する微生物について調査を行っていました。産総研では視点を換え、石油を嫌氣的に分解、メタンを生成する微生物について調査を行っています。本研究は深部地下の枯渇油田に残留する未回収原油をメタン (天然ガス) に変換し回収する技術の開発を目指したものであり、これまで私が研究対象としてきた好気微生物との違いに戸惑いながらも、利用可能なエネルギー資源の拡大を目標に研究を進めています。

イノベーションスクール PD 生ということもあり、1年間という非常に短い期間ではありますが、様々な分野の研究者が集結した産総研での研究生活を通して、研究者



としてより大きく成長したいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



小野 昌彦 (おの まさひこ) 地圏資源環境研究部門 (地下水研究グループ)

地圏資源環境研究部門の地下水研究グループに産総研特別研究員として配属された小野昌彦です。熊本大学の出身で、学部・修士・博士課程の約10年間を熊本で過ごしてきました。大学在籍中は主に水文学について学び、比抵抗探査法を用いた山地源流域の地下水貯留帯の解明や、海底地下水湧出 (SGD: Submarine Groundwater Discharge) の実態把握・定量評価といった研究テーマに取り組んできました。現在は、この研究テーマの縁があって、産総研において海底地下水湧出を中心とした地下水研究に取り組んでいます。

これまでの研究活動では、陸域から海域にわたるフィールド調査や、同位体・希ガスといった地化学成分の分析について経験を積んできました。産総研ではこれらの経験を活かして地下水研究に



取り組み、その成果を社会へ発信していきたいと考えています。また、産総研に在職中のこの機会を活かして、様々な研究分野の諸先輩から多くの知識を吸収することで、研究を発展させていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いたします。



朝比奈 大輔 (あさひな だいすけ) 活断層・火山研究部門 (地下環境機能研究グループ)

2014年4月から、活断層・火山研究部門、地下環境機能研究グループに任期付研究員として配属になりました。朝比奈大輔です。日本大学大学院理工学研究科で修士号を取得した後、米国のカリフォルニア大学デービス校の土木環境工学科にて学位を取得しました。その後、ローレンスバークレー国立研究所でのポスドクを経て、現在に至ります。

専門は、岩石力学、岩盤工学、コンクリート工学です。大学院在学中は、建設材料としてのコンクリートや粗骨材の力学的挙動について研究しました。特に、き裂の進展とコンクリートの不均質性の関係について数値シミュレーションを用いたモデル化を行っていました。ポスドクになってからは、研究の対象を建築構造物などの上部構造から、地下地盤などの下部構造へ変えています。ここでは力学と水理学の連成モデルを構築し、地質材料のき裂の進展と流れの変化を関連づけて扱うことができる解析システムの開発を行いました。

今後は、これまでの研究を活かして、放射性廃棄物地層処分における天然バリアとなる岩盤の隔離性能評価に関する研究に取り組み、実際の安全評価に役立てていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



写真 GSFC (サッカークラブ) の練習後です。昼休みにグラウンドで汗を流しています。



佐藤 善輝 (さとう よしき) 地質情報研究部門 (平野地質研究グループ)

2014年4月より地質情報研究部門平野地質研究グループに特別研究員として配属されました佐藤善輝と申します。名古屋大学文学部地理学講座の出身で2013年9月に九州大学理学府で学位を取得し、日本原子力研究開発機構に特定課題推進員として所属した後、産総研に入所致しました。

専門は自然地理学で、遠州灘周辺や鳥取平野、伊勢平野などの臨海平野を対象として、完新世中期以降の堆積環境や地形発達過程について研究しています。地元が臨海平野の1つである濃尾平野で、幼い頃から平野の地形や地下地質に興味を持つようになりました。学部・大学院は文系と理系を行ったり来たりしていますが、研究対象は一途に「臨海平野」です。修士課程からは、環境復元の指標の1つとして珪藻化石についての分析も行っています。好きな河川は木曾川と太田川(広島県)です。

平野地質研究グループではこれまで培ってきた知識や技能を活かし、またボーリングコアの堆積相解析や柱状図資料解析などの技能を習得して、足柄平野の地下地質に関する研究を行います。今後は、産総研に所属されている様々な研究分野の方々との交流し、見識を深め研究者として成長していきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



小森 省吾 (こもり しょうご) 活断層・火山研究部門 (マグマ活動研究グループ)

2014年4月1日より活断層・火山研究部門 マグマ活動研究グループに配属となりました、産総研特別研究員の小森省吾と申します。私はこれまで、電気伝導度(=1/比抵抗)という物理量を用いた地下流体挙動の定量的把握に関する研究を行っています。特に火山地域において、電気伝導度構造からマグマの脱ガスフラックスを定量的に評価する手法を開発し、脱ガス効率性が火山噴火の爆発・非爆発性に与える影響を調査しています。私の専門は電磁気学で、それに基づく観測(MT・電気探査)を研究の軸にしていますが、その他に、流体流動やそれを規制する物質に関する物性の室内計測(空隙率・浸透率・地層比抵抗係数・表面伝導度)や簡単なモデルに基づく流体流動計算も行います。

電磁気学的研究から火山ガス放出量を定量的に議論するには、他の地球物理・化学的研究との連携が不可欠です。産総研には、多様な専門性をお持ちの研究者がたくさんいらっしゃいますので、皆様の研究と自身の研究との関連性や新たな連携可能性を見出すことができるのではないかと期待しております。今後ともどうか宜しくお願い申し上げます。





西田 尚央 (にしだ なおひさ) 地質情報研究部門 (海洋地質研究グループ)

2014年4月から地質情報研究部門海洋地質研究グループでお世話になっております、西田尚央と申します。

私は、大学院では沿岸-浅海域で形成された地層の堆積プロセスについて研究を行いました。特に、泥質堆積物に注目し、高濃度の泥質流体「fluid mud」の堆積プロセスや、微細構造について研究を行ってきました。2010年からは海洋地質研究の世界に飛び込み、産総研特別研究員として福岡沖、日本海、苫小牧沖、伊勢湾、駿河湾の海底堆積物を対象に堆積プロセスや形成年代について研究を進めてきました。また、スペイン-ポルトガル沖大西洋で実施されたIODP Exp. 339に参加する機会をいただき(写真)、地中海流出水によって形成されたコンターライトの研究にも取り組んでいます。

今年度からは、主に房総半島沖の沿岸-浅海域を対象に海底堆積物の分布様式や堆積プロセスを解明するための研究に取り組んでいきます。海底堆積物研究の魅力は、現在まさに堆積作用が起きている世界を対象としていることだと思えます。また、まだまだわかって



いないことが多いのも特徴です。このため、地質情報の整備を推進するとともに、堆積学や海洋地質学の発展にも貢献できるよう精一杯取り組んでいきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



勝部 亜矢 (かつべ あや) 活断層・火山研究部門 (活断層評価研究グループ)

2014年度に研究員として着任することになりました、活断層・火山研究部門 活断層評価研究グループの勝部亜矢です。

2012年に広島大学で博士学位を取得し、2013年度まで地質情報研究部門長期変動研究グループ(現長期地質変動研究グループ)にポスドクとして在籍しておりました。これまでは、東アジア地域における地質構造発達史の理解を目的に、日本列島や朝鮮半島、中国、ロシア沿海州をフィールドとした地質調査とジルコンU-Pb年代学の研究に励んできました。

今年度からは心機一転し、活断層評価研究グループの一員として活断層研究に従事することになりました。グループの諸先輩からご指導いただき変動地形学を新たに学び、活断層の活動履歴解読に取り組んでいこうと考えています。社会の安全・安心に関わる活断層評価研究に携わることに対して大きな責任を感じております。一方で、新たな評価手法開発や日本列島のアクティ



ブテクトニクスの理解といった学術的な課題にも意欲的に取り組んでいきたいと考えています。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。